

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 2860 号	氏 名	早川 周良
論文審査担当者	主査 久光 正 教授 副査 中館 俊夫 教授 副査 小風 暁 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>QX-314 は TRPV1 チャネルを通して細胞内に取り込まれ、神経細胞の選択的遮断が可能な麻酔薬として臨床応用が期待されている。早川らは、痛み応答評価のインビトロ実験系である脊髄反射を用いた方法により、QX-314 および TRPV1 作動薬である Capsaicin の併用による麻酔効果を検討した。新生ラットから L1 から L5 レベルの腰髄を摘出して人工脳脊髄液で灌流し、L3 背側根の電気刺激による反射電位を L3 腹側根より記録した。Capsaicin と QX-314 (1000 μ M) を同時投与により、反射電位の持続的な低下が見られた。しかし Capsaicin と QX-314 (10、100 μ M) の同時投与では反射電位は低下しなかった。以上の結果から、Capsaicin と高濃度 QX-314 の同時投与によって持続的な鎮痛効果が得られることが示唆された。本論文は QX-314 の麻酔作用に関する新しい知見を得ており、学術上価値のあるものであり、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名：</p> <p>Effects of a Quaternary Lidocaine Derivative, QX-314, on Slow Ventral Root Potentials in Neonatal Rats</p> <p>(N-ethyl-Lidocaine(QX-314) の脊髄反射に対する効果)</p> <p>掲載雑誌名：</p> <p>Austin Journal of Anesthesia and Analgesia 4 巻 2 号 2016 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)